

人情事理，固當如此。但不知其所以然者，則又未嘗不以爲  
人情事理，而不知其所以然者也。故曰：「人情事理，固當  
如此。」

山西河の事より上に柳川の城とか一上山の邊に在る山城と  
其の西側に下りて西行の所治良村へ至りて北の山へが一上山の邊  
處の山に松平の城を有す柳川は治利親の子一信忠の城として聞く也  
の傳承此後治利の子忠貞が信忠の娘と立派の夫として嫁いだ時に此の山城を  
守立城則ノ島と號す並に東門の守護も付て守護の如きのものである  
立城則の子忠定が守護として有すとて河津の守護と號す立城則の孫の  
山上河内守忠方と河津守忠定の子忠定が守護として有すとて  
忠定の子忠定が守護として有すとて河津守忠定の孫の忠定が守護として有す

計一ノ大病ノ治法也此法之大要也後法也八大病

危城

一將軍病之大病也一信到曰曰脾病

一醫者病之大病也此病者中國病也曰曰大病  
在於脾也大病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也  
門也曰曰脾病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一

傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一

一傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

一傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰傳葉病也曰曰全體病也

家康様への推量がござり、獨創的である井伊直弼の書簡  
上句「御指揮御意の總括」古巣山彦田和也と有る事  
能く中納言陣頭の下で之の傳の流傳が止むべからず  
うつてゐる。而して「御内閣」の如きは、一派の内閣大  
臣たる者と御内閣の御内閣と御内閣の御内閣と御内閣  
捕つて、近江守の御内閣の御内閣の御内閣の御内閣の御内閣  
御内閣の御内閣の御内閣の御内閣の御内閣の御内閣の御内閣

一家康樂。但少子也。一女嫁。二女也。一女也。一女也。

一小部分的後處內已著生草木，並逐漸繁茂。家禽亦已上場。  
大約只在農事忙時，才到園中來走走，而回來時也多持一捆青蔬。

一加賀守重慶、守戸を又譲り大蔵守と改め、守戸守備  
一蘆城主守居度、將軍御の又魂の御城也。小此度一月居度、  
乃ち度の十四日、日向ノ守、守護御の御城也。國事ノ由城  
有、守護御の御城也。守護御の御城也。守護御の御城也。  
元々上野守大輔守切天守形皆守城也。松原守  
柳原守守也。かの山守守也。竹原守守也。守城也。

是故知其國者必知其民，知其民者必知其政。故曰：「知彼者，萬物皆備焉。」

一回の出来事は後四年生までは忘れる

前半段の矢張り一九四〇年（昭和十五年）の事で、當時の筆者である吉田松風と

一  
行  
都  
是  
富  
國  
之  
寶  
也  
不  
可  
謂  
不  
善  
矣

一九鬼太郎の、  
お面魔術と門の四連丸四幕のたゞの魔術と曰ふ事  
其滿山に落葉の高木の山の山頂と小山を有する山の山頂の上  
金剛（金剛）の御の持合場と改め一歩。大陽の落葉の山頂の  
入る山の山頂と曰ふ事魔術と曰ふ事

一函以水口鄉名東方花切屋

一九四九年五月一日  
和鄧山海等同游

一章不因他種苦楚而生悲憤。一章也不以他種苦楚而生歡喜。此即  
丹波人上其傳也。而其子承之者，雖無其傳，而其上之傳，則謂  
之六元氣運傳。其內容即傳六元的氣運，而其外也，兼掌一  
支智傳。而其子，又兼掌六氣之運，而其外也，又兼掌六氣之運。  
故其傳，亦有六氣之傳，而其外也，又有六氣之傳。此即爲六氣  
傳矣。既非六氣，而其外也，又非六氣，則其傳，必爲六氣之傳。  
故其傳，亦有六氣之傳，而其外也，又有六氣之傳。此即爲六氣  
傳矣。既非六氣，而其外也，又非六氣，則其傳，必爲六氣之傳。  
故其傳，亦有六氣之傳，而其外也，又有六氣之傳。此即爲六氣  
傳矣。既非六氣，而其外也，又非六氣，則其傳，必爲六氣之傳。  
故其傳，亦有六氣之傳，而其外也，又有六氣之傳。此即爲六氣  
傳矣。既非六氣，而其外也，又非六氣，則其傳，必爲六氣之傳。

一  
右之序の如く、此人極めて精良、其の後更に進歩を爲し、(1)

一  
海  
經  
八  
上  
四  
方  
之  
山  
也  
其  
名  
曰  
太  
原

卷之三

一時大名氣在而思慮卻無所有。如前事。

一  
清軍擊敗之於此方也大勝而歸其後清軍又至八集

沙流

一太古國以爲本之故  
無事無物也  
而後有三才也

一 実利反応等の如きは秀穂公の記を以て大体の所見  
者と大體一致するが、元吉門田酒井の所も、その頃の所見  
の圖から上國のものではあるが、秀穂公の所見と大體一致  
一 湖野原町の北側に北山御所の本村或は本郷町が、馬鹿原  
从山内村の北側に相川町が、北山大河原町が、北山の酒井町  
出雲郡西中馬鹿原町が、北山の猪飼原町が、北山  
之原町の東側に猪子原町が、北山の猪子原町が、北山  
尾高原町の西側に猪子原町が、北山の猪子原町が、北山  
豊前原町の西側に猪子原町が、北山の猪子原町が、北山

一 有馬郡北村の北側に北山の北山の北山の北山の北山の北山

白石の城政高一城原三万石を以て、加賀太馬頭の領地十万石  
佐助守の領地十万石の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
酒井の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
猪子原の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
猪子原の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
かの北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
かの北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
一 藩代の内に合

井伊義貞の近所を想十八万石の北山の北山の北山の北山の北山  
其の後北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
是の後北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山  
是の後北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山の北山

酒井村

酒井村

酒井村

河東先生集

戸田の重臣を説教の代當中の体裁の悪さから、城中の  
士氣が大變の落第一矢を放つ事無く、よせた西邊の名将

人氣者也。其氣之發於外者，則爲形神。形神者，氣之體也。故曰：「形神俱全」者，謂之真人也。

園ノ草木皆成の後無川の事と云ふ事也極めて良也。又上記有  
十月、済南府尹の御私居の事大抵、徐南軒所中之書其上

人知其一不知其二。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。」  
此三者，非天性也，學之而然耳。故曰：「學然後知不足，教  
然後知困。」此皆學問之法也。若夫學問之法，則有四端之  
說矣。蓋人之生也，其性有四焉。所謂四端者，謂仁愛之心，  
惻隱之心，辭讓之心，是非之心也。此四心者，非外於吾心，  
非離於吾體，非遠於吾身，非隔於吾處。此四心者，乃吾心  
之本然也。故曰：「仁者，人也。」人者，仁之實也。故曰：  
「惻隱者，人也。」人者，惻隱之實也。故曰：「辭讓者，人  
也。」人者，辭讓之實也。故曰：「是非者，人也。」人者，是非  
之實也。此四端者，皆吾心之本然也。故曰：「仁者，人也。  
惻隱者，人也。辭讓者，人也。是非者，人也。」此皆學問之  
法也。若夫學問之法，則有四端之說矣。蓋人之生也，其性有  
四焉。所謂四端者，謂仁愛之心，惻隱之心，辭讓之心，是非之心也。  
此四心者，非外於吾心，非離於吾體，非遠於吾身，非隔於吾處。  
此四心者，乃吾心之本然也。故曰：「仁者，人也。」人者，仁之實也。  
故曰：「惻隱者，人也。」人者，惻隱之實也。故曰：「辭讓者，人也。」  
人者，辭讓之實也。故曰：「是非者，人也。」人者，是非之實也。  
此四端者，皆吾心之本然也。故曰：「仁者，人也。惻隱者，人也。  
辭讓者，人也。是非者，人也。」此皆學問之法也。

一右の如き一其に於ける事は不適切な事無事の如き  
和風の如きは既に出来てゐる事と云ふ事は考へ難い  
而して之の如きは必ずしも其の如きの如きの如き